

子育て中の町職員チームが少子化対策を提言 「何が必要か」を真剣に考えた



▼部署の垣根を超えたプロジェクトチーム

白老町の出生数は2000年以降、02年の153人をピークに右肩下がり。07年には90人と三桁を下回り、22年は34人と過去最少と危機的な状況で少子化が進展。これに対し「子どもはまちの宝」を掲げる大塩英男町長のアプローチの下、各課の職員11人が昨年8月にプロジェクトチームをつくり、所属部署の垣根を超えた横断的な対策の検討を重ねました。

▼町内保護者約150人の声集約

「現状の把握」「課題の抽出」「対策事業の検討」「提言書のとりまとめ」と進め、幼保から高校の保護者に「子育て支援策ニーズ調査」をウェブで実施。約150人の意見を集約しました。その中で見えてきた「子どもの年代に応じた支援」「住みやすさ（自然・住環境、遊び場、交通など）」「仕事（雇用の場、資格取得、子育てとの両立）」など、不足している、必要と考える取り組みの具体案を模索しました。



▼ビジョンを具体事業案に

24年から実施すべき事業の提案では「胆振管内初宿泊型の産後ケア」「子育て環境の無償化（保育園の主食・給食費・保育料・医療費）」「マイホーム新築・リフォーム費用助成」「しらおいタウンプロモーション」「町内施設年間パス配布」「小中学生公共施設・町内循環バス無償化」「ポロトミンタラ『集い遊べる道の駅』化」「子育て応援事業者認定・支援」「ファミリーサポート利用料負担軽減」「子育て安心&子育て充実環境整備」と、14項目の事業案と事業費試算も行いました。

参加職員は「少子化の危機感を今さらながら実感。今までと同じことをしてはだめだと思いました」「自分の子どもにどういうことが必要か、という視点で検討しました」「考えたはいいが実現できるか、事業費の重みを感じました」と感想。代表の本間恵美子さんは「各部署の職員みんなで町の課題解決を考えるこのような貴重な機会はなかなかない。真剣に取り組みました」と早急な実現への期待を込め、提言書を理事者に手渡しました。

公共交通

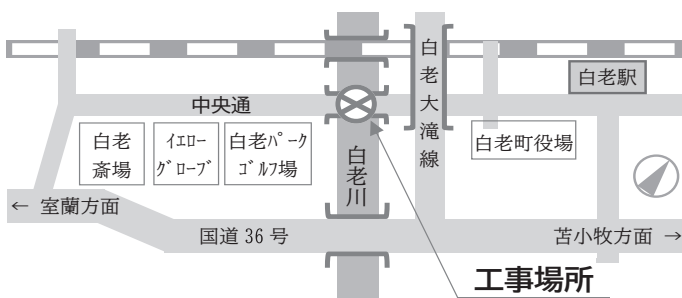
4月1日から 道南バス『緑泉郷空港線』が全便廃止となります

白老緑泉郷を発着地とする道南バス「緑泉郷空港線」について、慢性的な乗務員不足の影響、さらに2024年4月から自動車運転業務に関する働き方改革に伴い、次の通り全便運行廃止となります。

- 【廃止対象便】 白老緑泉郷を発着する全便
- 【廃止対象区間】 白老緑泉郷～苫小牧駅間
- 【廃止予定日】 4月1日(月)

問い合わせ先：道南バス株式会社 ☎0143-45-2131

【工事予告】白老橋修繕工事に伴う車両通行止め



令和6年6月ごろから令和8年3月ごろまでの間、白老川に架かる町道中央通の白老橋修繕工事に伴い、車両全面通行止めを予定しています。詳細は順次情報提供してまいりますので、予めご理解と協力をお願いします。

問い合わせ先：建設課 ☎82-4215